

様式第1号

会 議 録

会議の名称	平成23年度 第2回社会教育委員会議
開催日時	平成23年11月10日(木) 午後2時00分～午後4時00分
開催場所	所沢市役所高層棟8階大会議室
出席者の氏名	別紙のとおり
欠席者の氏名	別紙のとおり
説明者の職・氏名	
議 事	(1) 社会教育事業の今後のあり方について (2) 社会教育関係団体フォーラムについて
会 議 資 料	資料1 平成23年度 第1回 社会教育委員会議 会議録 資料2 平成23年度 社会教育関係団体補助金(交付金)一覧 (平成23年度第1回社会教育委員会議 資料) 資料3 平成23年度社会教育関係団体フォーラム企画書(案) 参考資料 平成23年度 第2回 社会教育委員会議 発表メモ
担 当 部 課 名	教育長・佐藤徳一、教育総務部長・山崎裕司、 生涯学習推進センター所長・金子美也子、文化財保護課長・鈴木正行、 スポーツ振興課長・関口恭一、所沢図書館・石川操副主幹 教育総務部社会教育課 参事兼社会教育課長・則武辰夫、主幹・浅野浩一、主査・吉田謙治、 主査・佐藤尊之、主任・粕谷紀夫 教育総務部社会教育課 電話 04(2998)9242

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
社会教育課長	【1 開会】
教育長	【2 あいさつ】
	<p>学校運営は学校だけではできない。地域の協力が不可欠である。一方、家庭における家庭教育も家庭だけでは難しくなっている。教育の初めの一步は家庭教育であるが、家庭にも手助けしていく、関わっていく必要を感じている。地域には様々な人がおられるが、コーディネーターとしての社会教育委員の役割は重要で、こうした人々を結びつけていただきたい。学校、家庭、地域に教育委員会を加えた四者で協力して進めていきたい。</p>
議長	<p>我々の任期も折り返しに入っている。大学で教えている学生が教育実習に出ている際、お世話になっている学校を訪問した。その地域では、学校まで田んぼが広がっており、その間に子どもたちの手作りの学校の案内看板があった。また、学校では運動会の準備がされていて、テントは集落ごとに使うことになっているとのこと。こうした地域の風景の中に地域の結びつきを感じた。</p> <p>本日の議題は2つあるが、活発な意見を願いたい。</p>
	【3 議事】
委員	<p>(1) 社会教育事業の今後のあり方について</p> <p><資料1>に沿って事務局より説明。予め送付していた参考資料に基づき、文化団体連合会、子ども会育成会連絡協議会、PTA連合会、ボーイスカウト・ガールスカウトについて、各団体から選出された委員より活動の紹介を行った。また、連合婦人会、レクリエーション協会については、予め預かった資料に基づき、事務局より報告を行った。</p> <p>文化団体連合会は、昭和45年に発足し市内で芸術文化活動を行う21団体が加盟している。各連盟で文化祭を行っているが、他にも学校に教育ボランティアとして「一人一芸教室」「邦楽ふれあい教室」などの実施に協力している。各連盟がミューズを中心に文化祭を実施しているが、会場の手配に苦勞している。ミューズを</p>

様式第2号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
委員（続き）	<p>予約するためには抽選に参加することになるが、思うように予約できないのが現状である。連合会の予算は、約287万円である。</p>
委員	<p>「ふやそう、子ども会の理解者を」と「いきいきした子ども会活動を目指して」を掲げ、昭和51年に結成された「所沢市子ども会育成会連絡協議会（通称：所子連）」は、市内22校区の育成会が加盟している。所子連は、安全部、広報部、研修部などがある。予算は年間約59万円で、そのうち、市から19万円の補助を受けている。活動内容は、所子連に加盟している22校区の育成会代表者の会議や8公民館で実施している育成者研修会（毎年2月から5月）、5年生インリーダー研修会（2月）、6年生インリーダー研修会（6月）、ジュニアリーダー養成講座（8月）、彩の国21世紀郷土かるた大会などがある。市の行事である文化フェアへの協力や、公民館で行われる育成者研修会への協力、また、教育委員会との共催により5年生インリーダー研修会を実施している。課題は、育成会組織が無い校区への働きかけであり、これまでも2校区が無くなってしまった。所子連として、校区育成会のバックアップをどのようにしていくか、また会の人材が増えないのも悩みである。</p>
議長	<p>どのような働きかけをしているのか。</p>
委員	<p>校区育成会を組織して、子ども会活動を行うように声掛けをしている。しかし、負担を感じるためか、敬遠されてしまう。</p>
委員	<p>P T A連合会は、市内の小中学校と県立特別支援学校を含む43校が加盟している。目的は教育の振興と学校及びP T Aの発展に努め児童生徒の幸せに寄与することであり、会員約2万人が一人50円の会費を負担いただいて、約162万円で運営している。補助金は、市から38万円、交通安全協会から7万2千円を受けている。市内を東・西・南・北・中央の5つのブロックに分け、それぞれのブロックが総務財政部と総会、環境対策部と市長教育長と語る会、成人教育部と教育講演会、教育広報部と広報紙コンクール、子どものための安全安心部と視察研修、というように役割と事業を分担し</p>

様式第2号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
委員（続き）	<p>ている。また、数年前よりメディア対策に取り組んでおり、携帯電話やインターネットの危険などについて講演会を開催している。課題としては、未加入校が市内小中学校を合わせて5校あることである。</p>
委員	<p>未加入校にはPTA組織が無いのか。</p>
委員	<p>保護者の会、親の会というような組織は、いずれの学校にもある。</p>
委員	<p>市内には、ボーイスカウトは正式名称、財団法人ボーイスカウト埼玉県連盟奥武蔵地区ボーイスカウト第1団と第5団、ガールスカウトは正式名称、社団法人ガールスカウト日本連盟埼玉県支部第6団と第36団のそれぞれ2団ずつ組織がある。ガールスカウトは、来年4月より社団法人ガールスカウト埼玉県連盟となる予定で、今、準備に追われている。自分はガールスカウトに所属しているので、ガールスカウトのことを紹介する。</p> <p>年長（6歳）から高校生・大学生まで参加することができ、成人指導者、団運営者で構成され、青少年の健全育成を目的に活動している。各団とも100万円から200万円ぐらいで運営されており、主に保護者の負担金であり、市からは各団4万5千円の補助を受けている。青少年が責任ある世界市民として、自ら考え行動できる人となることを目指して活動する、世界最大の社会教育関係団体である。主な事業は、自己開発や地域との交流、野外活動である。市民文化フェアや国際交流フォーラム、市民祭りなど市への奉仕的な活動も協力しており、並木小学校のキャンプに協力したりもしている。</p> <p>課題は会員の減少で、子どもが減っていることと、親が忙しくなっているので、親にボランティア参加を求めていることから避けられているのかもしれない。また、野外活動の場所が少ないのも悩みである。学校や幼稚園などとの連携の必要性も感じているところである。</p>
議長	<p>会員が減っているとのことであるが、指導者数の傾向はどうか。</p>

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
委員	保護者が指導者を担っているので、やはり減っている。
議長	野外活動について、市内では施設が無いのか。
委員	普段は航空公園などで活動しているが、問題は野外宿泊である。また、中学校、高校と進学していくに伴い、辞めていく人が多いのも課題である。
議長	連合婦人会からは何か預かっているか。
事務局	連合婦人会は、昭和 28 年「所沢市連合婦人会」として創立し、現在、所沢婦人クラブ、山口婦人会、吾妻婦人会、松井婦人会の 4 団体で組織されている。地域の歴史と文化を継承する活動をしており、市民フェスティバルへの参加や、北小学校 4 年生を対象に民謡「所沢音頭」を教える活動をしている。この活動が評価され、平成 23 年度彩の国教育ふれあい賞を受賞した。
議長	配布資料には無いが、レクリエーション協会については何かあるか。
事務局	<p>資料を預かっている。レクリエーション協会は、「レクリエーションを通じて市民の健康増進を図るとともに関係団体相互の親睦を密にして、レクリエーション運動を推進すること」を目的に、平成 11 年、所沢市体育協会から発展的に分離独立して設立した。加盟団体は、現在、民謡レクリエーション連盟、ハイキング連盟、ゲートボール連盟、インディアカ連盟、フォークダンス連盟、所沢ウォーカーズクラブ、健康体操連盟、所沢走友会、ミニテニス協会、シニアソフトボール連盟、ソフトバレー連盟の合計 11 団体で、登録人員は合わせて 3100 名になり、年間予算 76 万 5 千円（22 年度）である。</p> <p>加盟団体はそれぞれの年間計画・予算により、固有の日常レク活動を進めるほか、市レク協として、目的推進のため必要な会議の開催、加盟団体への助成金支給などを行うほか、埼玉県民総合体育大</p>

様式第2号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局（続き）	<p>会事業、埼玉県レクリエーション協会事業への参加、所沢市レクリエーション協会主催事業を展開している。</p> <p>多くの市民が、バラエティーに富んだレクリエーション活動を楽しむことにより、市民の健康増進と福利厚生に寄与していると自負している。また、所沢シティマラソン大会には体育協会とともに協力している。</p> <p>団体の課題としては、レクリエーション活動は多岐にわたり、団体数も増加している。県レクリエーション協会に登録されているが、所沢市には登録されていない種目団体も多く、すでにいくつかの新しい種目団体が参加希望の意思を申し出ており、支援方法の拡充が待たれている。</p>
議長	<p>前回の会議では、課題解決のために、地域での仕掛けづくりなども話題になった。それぞれの団体の課題にも傾向があるように思う。意見交換を行いたいので、自由に発言をお願いする。</p>
委員	<p>旧来の地区では文化の発信力も強く、縦軸が長いし求心力もあるが、新しい地区では何を軸にしていけばよいのだろうと感じている。学校教育でいえば、保護者同士のネットワークのなかで近所が知りあったりしてネットワークが広がっていくのだろうが、その意味では多くの方々が関わる小学校の役割は大きい。その中で仕掛けに入って来られない人とは、新しく地区に来た人、時間的に余裕のない人、高齢者だけの世帯などになると思う。このような人たちをどのように吸収していけばいいのかは、まだ分からない。若くて余裕のある人は、インターネットなどで情報を集め、地域とは別に関わる組織があるかもしれないが、社会教育団体もそういう人たちへ情報発信をしていけば、認知されるのではないか。</p> <p>小学校でお雛子の勉強をするとき、地域の人脈が頼りで、組織の力がありがたい。</p>
議長	<p>各団体からの発表の中に、課題として「人が減っている」という発言が多かったようだ。レクリエーション協会、文化団体連合会は</p>

様式第2号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
議長（続き）	<p>大所帯のようだが、他の連合組織では加入団体が減っているという発言もあった。保護者などの参加者も減っているという発言もあった。社会教育の専門の立場から、何か意見をいただきたい。</p>
委員	<p>各団体の役割や課題を伺っていると、非常に重要な課題であると思う。なぜ、参加、非参加に分かれるのか。国の施策でも何とかしなければと議論になっている。日本で生涯学習施策がスタートして約30年になるが、当初は、自主的な個人の学習により自己実現させることが重要であると力を入れてきた。その結果、趣味や教養をテーマとした消費する学習が中心となり、特に21世紀に入ってから反省点として持ち上がってきた。社会にとって必要なことは何かという要素がないと地域での問題に対処できない。個人が豊かであると共に、公共を支えるあるいは地域を支えるという意識が必要になるのではないかと、という意見が出されている。皆さんの発言を伺っていると、正に社会教育のあり方について、ここで見直しが必要であると感じる。</p>
議長	<p>ただ今の発言から、社会を支える意識をどう育てるかという視点を新たにいただいた。青年会議所ではどのような活動をしているのか。</p>
委員	<p>青年会議所では、青少年健全育成の事業として「わんぱく相撲大会」を継続して実施しており、毎年700名くらいの参加で盛大に開催している。その他に「体験塾」として市内小中学生向けに色々な経験を提供する事業も毎年実施している。また、街づくり事業などもやっているが、教育に関連する事業は概ね以上である。</p>
議長	<p>役員の人数は、どのような傾向であるか。</p>
委員	<p>新入会は難しい。青年会議所でも最重要課題として3年ほど取り組んできて、やっと入会を取り付けているが、全国的に見ても会員数は減っている状況である。</p>

様式第2号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
委員	<p>「教育」と言うと敬遠され、「趣味」とか「娯楽」だと出かけられる。そこをどのように仕掛けをつくるかであろう。考え方を探ってみる必要があるのではないか。以前PTA活動の経験があるが、70から80日ぐらいの活動が必要で、成り手がいないという経験がある。</p>
議長	<p>確かに教育と言うと、堅苦しい。かつての経験であるが、学校にパトロール隊ができたが、うちの地区には見回りに来てくれない、と苦情が学校にきた。本来は皆でやることで、隊はボランティア活動だ、と話したことがある。自分の手をわずらわすことは避けるように思う。大事なことを理解してもらい、地域などに参加してもらい、という意識を育てるかであろう。</p>
委員	<p>少し話が外れるかもしれないが、言葉の問題について話したい。若い人たちの「まぎやく（真逆）」、「どんびき（ドン引き）」などの言葉、「大丈夫」の使い方も本来の使い方と違うようだ。学校から民生委員の方を通して、子どもたちが書いた手紙をいただいたが、表現がおかしい部分があった。また、学校にボランティアで講師として訪れた会員からも、講師で訪れているのに「おばさん」と呼ばれたなどとの報告があった。言葉使いについて、気がついた時に指摘することは大事だと感じた経験がある。</p>
議長	<p>根底にあるものは、同じなのではないか。ある話だと、結婚が減ったのは、人の面倒をみる、いわゆる「お節介」が減ったせいだ、とも言われているようだ。</p>
副議長	<p>生涯学習が、公共を支える方向にという傾向は心強い。 私たちの活動を支えている人たちは、地域を支える同じような経験を持った大人を見て育った人だと思う。</p>
委員	<p>子どもたちに対する評価は、学校だけの評価ではなく、子ども会などの地域での評価も必要であろう。横軸の役割を果たすのが社会教育だと思う。そういう意味では、それぞれの活動が拡がりを見せ、</p>

様式第2号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
委員（続き）	面としての役割を期待したい。
委員	<p>仕掛け作りという話を前回にした。例えば、「言葉使い」などの件は、子どもたちの生きる力、きっと長い間には良い影響があるはずである。学校週5日制がスタートし10年が経過した。土日が休みになり、学校以外で「生きる力」を身につける機会として、自由を子どもや家庭に保障しようとしたものであった。ここで振り返ってみて、何が上手くいっているのか、どのようにすればさらに良くなるのか点検する必要もあるのだろう。土曜日をどのように過ごすのか、というサポートとしての社会教育があるのではないか。</p> <p>また、各団体で発信の機会、つまり研修や発表などの機会は貴重なことだと思う。生涯学習の特徴でもあり学校教育でも同じような傾向があるが、情報をキャッチする力はあるが、情報を発信する力はまだまだだと思う。各団体などが、積極的に働きかけていくのも仕掛けの一つではないか。</p>
議長	<p>いくつか視点を拡げていただいたと思う。今日のところは、この辺りにしたい。また、今回のテーマについて、角度を変えた議論ができればよいと思う。</p> <p>（2）社会教育関係団体フォーラムについて</p> <p>資料3に沿って事務局より説明を行い、役割分担などの協議を行った。</p> <p>その結果、コメンテーターは田部議長、染谷委員に決定し、司会（コーディネーター）は原案通り、関委員に決定した。また、パネリストとしては、連合組織からはPTA連合会と文化団体連合会、実行委員会組織からは、市民文化フェア実行委員会とこどもルネサンス実行委員会にお願いする方向で調整することとなった。</p> <p>（3）その他 特になし</p>

様式第2号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
副議長	<p>【4 その他】 関係各課より、事務連絡などを行った。</p> <p>【5 閉会】</p> <p>社会教育関係団体フォーラムの開催に向けて、ご協力をお願いします。今後もますます社会教育が充実することを願っています。活発な協議ありがとうございました。これをもちまして閉会とします。</p> <p>以上で終了</p>

所沢市社会教育委員会議 出席一覧

平成23年11月10日(木) 14時から 8階大会議室

選出根拠※	氏名	備考	出欠席
学校教育関係者	古屋 正明	所沢市立小中学校校長会 (三ヶ島中学校長)	出
学校教育関係者	澤田 一夫	所沢私立幼稚園協会 会長	欠
社会教育関係者	越川 輝代子	所沢市文化団体連合会 副会長	出
社会教育関係者	沢 房江	所沢市子ども会育成会連絡協議会 副会長	出
社会教育関係者	佐野 喜代子	所沢市ボーイスカウト・ガールスカウト連絡協議会 (ガールスカウト埼玉県第36団団委員長)	出
社会教育関係者	古市 欣生	所沢市レクリエーション協会 副会長	欠
社会教育関係者	長沼 浩	所沢商工会議所 青年部会長	欠
社会教育関係者	田中 克典	所沢青年会議所 副理事長	出
社会教育・家庭教育関係者	細野 達男	所沢市PTA連合会 会長 (北野小学校PTA会長)	出
社会教育・家庭教育関係者	成田 桂子	所沢市連合婦人会 副会長	欠
家庭教育・学識経験者	染谷 哲夫	秋草学園短期大学教授 幼児教育学科	出
学識経験者	田部 真一	淑徳大学非常勤講師 (元市内小学校長)	出
学識経験者	松居 辰則	早稲田大学人間科学学術院教授	欠
学識経験者	有地 好登	日本大学芸術学部教授 美術学科主任	欠
学識経験者	関 直規	東洋大学文学部教育学科准教授	出

※選出根拠＝社会教育法第15条第2項